

2. 国際医療薬学教育研究推進プログラム

本プログラムでは、高度な薬学専門性・研究力に加え、柔軟な俯瞰力、領域を超えた創造力を修得し、国際的な創薬研究や医療の発展に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師として、グローバルな視野・立場で国際的な研究機関や医療機関、行政機関での活躍や、学際融合・分野横断型研究の推進ができる薬学研究者や薬剤師、さらには世界の生命科学研究、薬学研究をリードする薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、本事業はその発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「国際医療薬学教育研究推進プログラム」については、国公立大学における豊富な国際的な教育研究交流、特に欧米等の最先端の生命科学研究を実施している機関・大学との交流実績を基盤として実施する。実践的語学教育プログラム（共通）をもとに、学部については、国際学会への参加、学生自主学修としての海外研修・インターンシッププログラム、大学院博士課程については、アドバンスト国際共同研究プログラムによる海外研究機関や大学における研究活動の実施が挙げられる。

【2022年（令和4年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 6大学ジョイントシンポジウム 【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、教員による英語での研究発表を実施した。

<富山大学>

○ 南カリフォルニア大学における臨床薬学研修 (*)

- ・学部生及び大学院生を対象として、南カリフォルニア大学・薬学部 のPharm Dコースの教員による講義やグループワークを行った。2022年度はオンラインにより実施した。

<金沢大学>

○ 金沢大学薬学類の学生のための単位認定プログラム

- ・学部生を対象とした単位認定プログラムとして、英語力を伸ばし、専攻に関わるグローバルな視野を広げることを目的とした短期留学プログラムを計画していたが、

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止とした。

- ・本プログラムは、1) 英語によるコミュニケーション力の醸成、2) 海外における薬学教育の理解、3) 英語プレゼンテーションの実践、4) 異文化体験を目的としたものである。

<広島大学>

○ マレーシアなど海外大学との交流

- ・マレーシアInternational Medical University薬学部など、海外大学との派遣、受け入れ、共同研究などの交流を計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止した。

<徳島大学>

○ 2022年度 徳島大学薬学部—米国ノースカロライナ大学 (UNC) 薬学部症例検討ビデオカンファレンス

- ・学部生を対象として、学部間協定校である米国ノースカロライナ大学 (UNC) 薬学部との交流事業の一環として、ビデオ会議システムを活用し、両校学生によるリアルタイムでの症例検討会を例年実施している。
- ・本年度は、3回のビデオカンファレンスを実施し、英語での症例検討を行うことで、臨床におけるグローバルな考え方の必要性について学んだ。

◇ 参加人数：学部生34名

<長崎大学>

○ ニューメキシコ大学短期研修プログラム【連携】

- ・学部生と大学院生を対象として、学生自主学修プログラムに採択された合同申請プログラムの一環として実施した。2023年2月10日～19日の全10日間の日程で実施し、①海外での臨床薬剤師の活躍を見学し、日本との差異を体験することでもって、高度先導的薬剤師の養成に資すること、②英語によるコミュニケーション能力、異文化に基づく研究・教育の多様性を理解する能力、自ら進んで討議に取り組む主体的な態度などを身に着けることにより、総合的で実践的な英語能力を養うことを目的としたもので、今回で3回目となった。全19大学の学部生・大学院生に公募をかけ、結果的に他大学学生含め3名の学部生をニューメキシコ大学 (UNM) に派遣した。

○ ニューメキシコ大学薬学部実習生の受入 (International APPE)

- ・学部生と大学院生を対象とし、2023年3月6日～17日、ニューメキシコ大学薬学部の正規授業である地域医療実習 (実習生1名と引率教員2名) を長崎大学薬学部にて初めて実施した。地域医療実習の前半1週間は、長崎大学薬学部での事前臨床実習、長崎大学病院薬剤部での臨床実習及び薬局での漢方実習を行った。後半1週間は上五島地区の離島実習施設 (小値賀診療所、上五島病院、調剤薬局等) で僻地医療実習を行った。本学薬学部教員10名、学部学生30名程度、博士課程大学院生2名。

<静岡県立大学>

○ US-COIL：大学の世界展開力強化事業

- ・カリフォルニア大学デービス校健康科学学部の外部講師と薬学部教員による講義をオンラインによる遠隔教育（COIL型教育）により実施した。
- ・本事業は上智大学・お茶の水女子大学との3大学で実施しており（2018～2022年度）、2022年度はカリフォルニア大学デービス校の講師が作成したプログラムを用いた実践授業を行った。

○ 実務事前実習（4年生対象）講義

- ・米国アリゾナ大学薬学部のMichael Katz教授がPHARMACY PRACTICE: RESPONSIBILITIES AND ROLES FOR PHARMACISTS IN DIFFERENT PRACTICE SETTINGSというタイトルの講義を行った。

○ 薬学英语

- ・ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学領域における英語コミュニケーションを習得する講義を行った。

○ イングリッシュリサーチプレゼンテーション

- ・ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学研究発表を英語で行う際の実用的なトレーニングを行う講義を実施した。学生は自ら行ってきた卒業研究に基づいて英語での発表資料の作成と発表練習を行った。

○ 科学英語

- ・ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による国際学会での発表支援を講義の一環として実施した。

○ 米国アリゾナ大学薬学部他の視察・研修への学生の派遣

- ・米国の薬剤師業務、薬学教育や医療制度における研修するため、アリゾナ大学薬学部、アリゾナ大学病院、ツーソン市内の薬局などの視察・研修を8日間にわたり行った。学生2名（5年生）が参加した。

<和歌山県立医科大学>

○ ブルネイダルサラーム大学研修プログラム

- ・大阪大学とブルネイダルサラーム大学（UBD）との学生研修プログラム「大阪大学ASEANキャンパス キャリアアドバンス英語プログラムinブルネイ」に学生2名（2年生、1年生各1名）が参加し、UBD Tropical Biodiversity Center等において、生物多様性の保全や環境汚染問題に関する研修を行った。

2) その他（大学としての取組）

<熊本大学>

○ International Teaching Certificate Program の受講に基づくカリキュラムプランニングワークショップの開催

- ・大学院生を対象とし、UNMCOPが提供するInternational Teaching Certificate Programを大阪大学、長崎大学、熊本大学の教員が受講し、アメリカの先進的な臨床薬学教育指導法を学ぶことで教員の臨床教育能力を高めた。さらに、大学間合同の教員・学生によるカリキュラムプランニングワークショップを開催し、学びの共有化と学生の臨床能力の向上を図った。）

○世界各国の医療システムおよび感染症対策を学ぶオンライン海外研修

- ・世界各国の医療システムおよび感染症対策を学ぶオンライン海外研修として、ニュージーランド、ネパール、バングラデシュ、スーダン、ドミニカ共和国、中国、イギリスの医療システムおよび新型コロナウイルス感染症対策について、海外の大学教員によるオンライン講義で学ぶ研修を実施した。